

序

医学部を卒業し、医師国家試験に合格すれば、いよいよ臨床研修医としてのスタートです。期待と不安交々かもしれません。そんなとき、役に立つ書籍として、本書を企画することにしました。

本編では、医師として日常実施しなければならない「手技」のうち、特に重要な項目に焦点を当ててわかりやすく記載しました。

基本的な手技は医学部の臨床実習で学んだり、見学はしているはずでしょう。しかし、いざ自身が責任をもって実施するとなると話は変わります。見ると聞くとは大違い以上に、自身の手を使って実施するのは格段の差があります。これらは経験を通じて修得することが多いものです。初心者は指導医の元で、指導を仰ぎながら習熟していく必要があります。

とはいって、あらかじめ手技のコツや注意点を知っておけば、技術の習得は容易でしょう。場合によっては指導医や患者、他医療職種から尊敬のまなざしで見られることにもなります。

本書は2004年から2013年にわたって「レジデントノート」誌に連載された記事の一部を抜粋し、単行本用に加筆修正したものです。もちろん医学・医療の進歩にあわせ、最新の情報を盛り込んでいます。

ぜひ臨床研修医の皆さんには本書をご活用いただき、臨床研修に励み、臨床能力に長けた医師として医療に貢献して下さい。また医学生、指導医の皆さんにも、ご利用いただければと思います。

本書の企画、編集にご協力いただいた各執筆者、羊土者編集部に深謝します。

2014年 桜咲く頃

奈良信雄